

潜在戦力を集結せよ!

Flamenco2030の未来戦略 前編

西田昌市 (Flamenco2030管理人) 対談 小山雄二 (月刊パセオフラメンコ編集長)

「こんな時だからこそ、フラメンコ界に何か明るいインフラを!」

コロナ禍の暗雲立ち込める4月の緊急事態宣言二日前の新規プロジェクト決起集会。すべてはあの晩の東高円寺マジョールから始まった。Webシステムと資金面は西田、業界経験値と人材招集は小山、表方はバイラオーラ鈴木眞澄、裏方はパセオ井口由美子で行こうやと、おにぎり片手の緊急構想はわずか60分で決まった。西田管理人と直接会うのは、あの日以来およそ四ヶ月ぶりのことだ。

フラメンコ界のプラットフォームをめざす「Flamenco2030.com」のサイト制作や『第一回フラメンコWebフェスティバル』の運営の現場で、メールやらメッセージやらテレビ会議やらではほぼ毎日ガンガンやり合ってたものだからまったくブランクは感じない。現場ノリのやりとりは途絶えることなく、90分予定の対談は延々四時間を超え、この企画はオキテ破りの前編～後編コースに突入するのだが、まあいいか、残しておきたい記録だ。サイト立ち上げ時の回想、成功を取めた第一回フラメンコWebフェスの反省と改善点、さらに二回目以降の具体的展望、そして2030の未来展開についての双方云いたい放題。(本誌編集長)

電撃プラットフォーム作戦

小山 今日のこの対談が7月26日、コロナも小康状態かと思ったのも束の間、何やら怪しい気配もあるよね。ともあれ、4月上旬に準備開始したフラメンコ復興サイトが5月には立ち上がり、続く6月の初回フラメンコwebフェスが成功を取めたことに一瞬安堵してるよ。西田管理人のプロデューサーとしての執念と、柔軟で逞しいリーダーシップには実際驚いた。一緒に仕事出来て光栄だったよ、おつかれさんでした、

ありがとう!

西田 ありがとうございます。いや新米の僕なんかまだまだですが、フラメンコ一筋のプロフェッショナルの方々が、丸ごとご自分の人生を懸けておられますよね。日本のフラメンコ界を知れば知るほど、そのことがうれしく新鮮です。

小山 本人たちからすればそれが普通のことなんだけど(笑)よその世界から見ると、まずそこにびっくりするみたい。



©Yumiko Iguchi

西田昌市 (flamenco2020管理人)

西田 だって今どき、自分の人生を懸けられる何かを探し当てて、そこに全力で打ち込む人生って最高じゃないですか。一方で、皆さん物凄い困難を抱えながらライブや教授活動を続けています。凄い実力を持ったアーティストなのに、何でそんなに苦労しなくちゃいけないのか。僕の場合はたまたま運良くフラメンコと出会ってフラメンコを好きになった人間ですけど、縁の下から何かサポート出来ることがあるならば是非やらせていただきたいってことなんです。

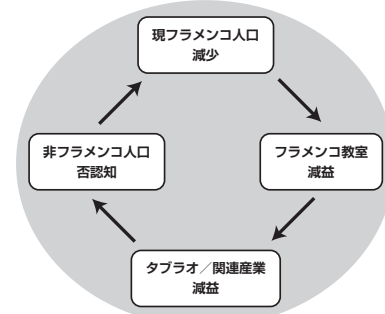
小山 有言実行の流れで、この三年ばかりでスタジオ三つとタブラオ三つの管理人やりつつ、さらにこの春フラメンコ復興サイトを立ち上げたわけだ。

西田 フラメンコそれ一本で人生頑張る方たちが、早く本業だけで食べていける状況になってほしいです。そんな

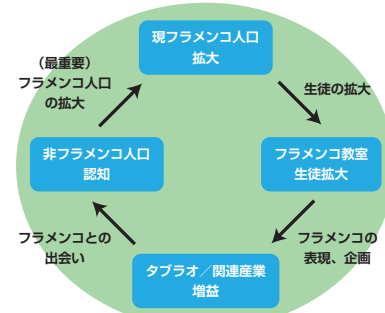
るためには、フラメンコ界全体の循環が良くなる頑丈なインフラが必要ですね。

小山 ああ、去年のパセオ11月号で管理人が発表したあの循環図だな。部分的・一時的に良くなってもそれじゃ永くは続かないから、全体が回ってゆく循環を意識的にじっくり築いてゆく必要があるって例の図だよな。

フラメンコ界の悪循環



これからのフラメンコ界の好循環



本誌2019年11月号『西田昌市のフラメンコ未来構想』より流用

西田 はい、アレです。コロナショックでさらに大変なことになって、いまは教室もタブラオも関係店も身動きが取りづらい事態だけど、何もしないでいたらやがてはもっとひどいことになる。でもこういう状況だって、時代や状況に合わせて理想の循環を準備することは何かしら出来るはず。そんな時に小山さんから「何かやろうよ」ってお声が掛かったんで、あの東高円寺の決起集会にスッ飛んで行ったんですよ。

小山 マジョールの鈴木眞澄さんが作ったおにぎりとお茶で乾杯したあのプ

プロジェクト発足委員会。でも、別にこっちが音頭を取らなくて君がいつか始めたことだろ？

西田 もちろんそのつもりでしたが、そのための実働部隊もまだこれからの状態で、着手は2021年以降になると思っていました。賛同してくれる人を見つけないのが難しく身動きとれなかったですね。だから緊急事態宣言を逆手に取って動き出す小山さんの発想に驚かされました。

小山 こういう逆境だからこそ、心をひとつに出来ることってあるよね。だけど俺一人じゃ何もできない。だから真っ先に昌ちゃんにメール打ったんだよ。

西田 ネット上のシステムを創ることは僕の領域でわりと簡単に出来ることなんですけど、肝心なのは中身のコンテンツを産み続ける人材なんです。経験値豊富な小山さんが人材面を引き受けてくださるなら、これは絶対実現出来るって、あの時点で確信していました。

小山 フラメンコ界全体を潤す循環を創るネット上のプラットフォームってのは、最初の対談の時に君から啓蒙された重要課題だったんだよ。いつか誰かがやらなきゃならない課題なんだけど、とにかくハンパじゃない人出と金と時間が必要なわけで、しかもランニングコストも発生するから、誰も着手出来なかった。しかもこの爺さんと来たら、新時代のシステムにはまるでついて行けてない。だから西田がシステム面を引き受けてくれるなら、小山も井口も、何ならパセオの1号や2号休刊してでも、プラットフォーム創りを最優先しちゃうかって、あの会合の前に覚悟決めてたんだよ。プラットフォーム内に世代や流派を超えて協働できる人の和を蓄えておけば、コロナ禍以降、たとえ世の中がどんな状況になってもきっと建て立て直しが利くはずだっていう乱暴な読み筋なんだけどね。

西田 その感覚が一致してたんですね。パセオも1号休んですぐに復活されたんですけど、近未来のプラットフォームを優先する強気の臨時休刊だったんですね。

小山 立ち上げる作業に熱中出来てほ

んと楽しかった。仕事してるか寝てるかの野戦病院状態(笑)おかげでうんと昔にフラメンコ協会を創った頃の青春が甦ったよ。気分が高揚してたからだろうね、公的な緊急融資もポンポン決まって、家賃の安い駅前の使い勝手のいい事務所に引っ越すことも出来た。

西田 居心地のいい事務所ですね。中野駅からすぐだし、これからは打ち合わせも楽になりますね。

潜在戦力を集結せよ！

小山 打ち上げ花火的に用意した初回のWebフェスは、予想を遥か上回る成功だったね。おかげで心が折れずにすんだって、意外な方も含めて、たくさんの業界人からメールもらったよ。さて、ひと段落して、2030プロジェクト・リーダーとしてはどんな感想なの？



小山雄二(Flamenco2030相談役)

©Yumiko Iguchi

西田 はい、成功度は100点だと思います。正直ここまでうまく行くとは思っていませんでした。でも、反省点改善点はそれ以上にたくさんあります。だから、全てはこれから始まるんだっていう思いです。

小山 反省点と改善点、その最たるものはどのあたりだろう？

西田 初回と云えども、レギュレーション(規則)の甘さが出たのは最大の反省点です。もっと具体的に徹底的にシュミレーションする事前準備をしっかりやれば回避できたことだったのに、そこが甘かった。くやしいですね。幸いにも、出演者部門と視聴者部門の両方からのご指摘ご意見もたくさんいただけたので、これは次回以降大いに反映します。

小山 企画開始から募集スタートまで1ヶ月もなかったわけだし、驚異的な

技術スタッフ陣の対応だったと思うけどな。

西田 実際それが大きいんです。それと次回以降の具体策がたくさん発見できたこともラッキーでした。例えば、わかり易いサンプル動画や、音源・照明・編集などの注意点についてもっとわかり易く明記できれば参加者も応募しやすくなります。それと、こういう風にやると見栄えがするよ、みたいなレッスンのアドバイスを加えていくと全体のレベルが上がって視聴者にもっと楽しんでいただけます。こういうルールなんです！ってことを具体的に親切にわかり易く説明することが、フェアな環境を整える上でも実に重要だったことが身に沁みました。

小山 では一方で成功の最大の要因は？

西田 それはもうスタッフの皆さんの精度の高さと頑張りに尽きます。ハイレベルな上に、ここまでやってくださるのか！って、僕ちょっと驚きましたから。

小山 システム技術の話になるとこちらはチンプンカンプンなんだけど、メッセージのやり取り見てると、愚痴も云い訳もなく、皆で協力し合って次々と問題解決していくプロセスが実に痛快だったなあ。

西田 はい、実はこのことが新規プロジェクト立ち上げの最大の収穫なんじゃないかって思えるんです。フラメンコが好きで、他にしっかり仕事を持ちつつ、プロにはなれないけど、裏方としてフラメンコそのものを支えたいと願っている人は、意外と多いんだなあって。立ち上げ前に小山さんがフェイスブックで協働者を募集すると、海外含めて20人以上、すぐにボランティア・スタッフが集結してくれましたよね。皆さんそれぞれ得意ジャンルで力を発揮してくれて、まだ一度もお会いしたことない方ばかりなのに、こんなにクリエイティブな協働が出来るってことが驚きでした。

小山 まるで映画観てるみたいだったよ(笑)まあ、これもフラメンコの実力のひとつだと思うんだよね。でも、現実的な要因はあんたのしなやかなリーダーシップだよ。いい仕事をした人を



「第一回フラメンコWebフェスティバルのグランプリに輝くバイラオーラ荒濱早紀さん(右)と、彼女に肖像画をプレゼントした大和田いづみ画伯」

的確に評価する、拳手が起きない時は黙々と自分で解決する。次回人生があるなら、おれも今度はそうするよ(笑)

西田 みんながノーギャラのボランティアで、自らフラメンコの未来を担おうとしています。お役に立って皆に喜んでもらえる、やってて楽しいっていうのが、大切にキープすべき状況だと思います。それと自分にはない能力をお互いに補完し合える状況、そういうチームワークって楽しいですよ。そういう人たちって、漠然とした希望は持っていて、自分の人生の先行投資っていうか、いまお金にならなくても、そういう延長線上に何かうれしいことが待ってるかもしれないっていう謙虚な希望で行動していますね。

小山 管理人のフラメンコ界の好循環戦略も、そういう潜在的な力をどう探し出して、どう能力を発揮してもらえてくることに直結するような気がする。

西田 Webフェスを実際に運営してみたことで、未知の方々との連携の在り方が少し視えてきたかもしれません。プロではないアフィショナードが、それまでの人生で培ってきたいろんな技能を、惜しみなくフラメンコの世界で発揮してくれる状況が一番望ましいですね。直接お金にはならないけれど、その以上の何かを得る可能性はある。フラメンコのために力を発揮してよかったと思えるような、2030プロジェクトはそういう活動を続けていく必要があると思います。

小山 余談だけど、Webフェスで興味を持ったギタリストの演奏画像やプロ

グを調べて、パセオのギター講座連載の依頼を決めたのが昨日の話。2030は持ち出しオンリーって割り切ってるんだけど、いきなり本業の充実にも結びついたわけで、こんなうれしい誤算は大歓迎だよ。

両輪稼働と鈍感力

西田 ネットを活用したこういう普及の仕方ではフラメンコ人口が増えていくと、その内の数パーセントが本筋のフラメンコの素晴らしさに気づいて、結果としてプーロなフラメンコを守ることにもつながりますよね。

小山 そう、博物館に入っちゃったら、ある意味おしまいだから。

西田 それにエンリケ坂井さんも本誌に書かれておられたように、フラメンコは商業化の波をうまく泳ぎ切ってここまで生き延びてきた歴史を持つジャンルですから。この先もフラメンコの普及発展を望むなら、後ろばかり向いてちゃいけない、またスペインばかり見るのではなく、僕らの生活そのものの中で、フラメンコに親しみながら楽しみながらいろんな発展形を創っていくことが重要だと思うんです。もちろん本家本元プーロの継承は肝心要であることは承知していますが、それは最も大切な中核部門というふうに僕自身は位置付けたいです。そうでないと、どんどんチャレンジして変わって行くという、もう一方のフラメンコの本質を台無しにすることになるんじゃないかって。

小山 外国人が独自に進化させたものが、逆に世界に広がるきっかけになったりするからねえ。音楽の世界でもバッハなんか、まさしくその典型だね。ドイツが産んだバッハの、その現代の演奏の主流はオランダ、ベルギー、日本あたりなんだ。だからバッハコンクールなんかでドイツ人が優勝したりすると「ドイツ人なのにバッハが上手い！」なんて大騒ぎになる。アートの国際化ってそういうことだよ。

西田 日本が独自に発展させたカレーやラーメンが世界を席巻する、食の世界でもそんな時代です。

小山 うん。今回のWebフェスでも

ロックスタイルで弾き語りした定直慎一郎流カンテなんかもブツ飛んでで最高だったよね。本質を理解してる人は、少なくとも魂は外さないし。ジョージキは非公式ながらパセオしゃちょ賞なんだよ(笑)

西田 スペイン人に近づく追及を最上級としながらも、それと同時並行で日本独自のものを試行錯誤することが、すそ野の拡大には欠かせない要因ですね。

小山 歴史的に見ても日本に「フラメンコ」という名詞を定着させた最大の功労者は『星のフラメンコ』を歌った西郷輝彦さんだし、あれが無かったらオレ、パセオやってなかったかも。

西田 えっ、それほんとですか?!

小山 ホントだよ。パコ・デルシアと出会う布石は星フラだったんだよ。パセオの対談取材の時に張本人にそれ云ったら、西郷さんノケズってたよ(笑)。あと1990年代に空前のバイレブームを引き起こしたのも『古畑任三郎』の犯人バイラオーラ山口智子さんだしね、西田理論はまったく正しいんだよ。

西田 一方にプーロの砦があり、一方にすそ野を広げる様々な新しい果敢なチャレンジがある。その両輪稼働こそ、広まり続ける条件なんですよ。で、バランス的に今のフラメンコの世界に足りないのが、普及のための新しい試みなので、さしあたり2030プロジェクトはそこを後押しすべきだと思うんです。

小山 うん、賛成だよ。で、取っ掛かりはどこらへんかな?

西田 そう例えば、まずは「日本語フラメンコ」に力を入れたいです。一般の方々の前に立ちふさがるスペイン語という大きな壁を取り払う部門がまず欲しいです。限られた世界の中でスペイン本格派だけを追い求めていくことも出来る時代だし、うんと広い世界にフラメンコを解放していくことも出来る時代ですから。

小山 うん、だから互いに邪魔しないで助け合う。だってそれらは相互補完する関係なんだから。

西田 一般的な視聴者とフラメンコの視聴者とは、観るところが違う。そういうデータも伝えたいですね。これ

はどんなジャンルにも云えることですが、例えば玄人的にももの凄い本格派が必ずしも一般ユーザーに高い評価を得るとは限らない。もちろん圧倒的に群を抜いて突出した内容なら話は別ですが。

小山 本格派と一般的に支持されるエンタメ派とを同じ土俵で観れるのは実に健全だしありがたい。両方からそういうブッチ切りグランプリが出てくる可能性も生まれるしな。

西田 いわゆるコンクールとは違って、ネットの世界では人気投票の側面も大きいです。フラメンコの世界でも実はその部分はとても重要だと捉えています。ただし、特に一個人による組織票だけはダメで、今回のWebフェスでも、スタッフの協力を仰ぎながら、大変な労力でしたが、ひとつひとつ根元を調べて、投票数から外していきました。

小山 海外の個人からの組織票は露骨だったからなあ。文化の違いもあるし、こんへんは2030を国際化して行く時の大きな課題になるね。

西田 防御体制を強めても、結局イタチごっこになるのですが、フェアでないものはあくまで排除してゆこうとする姿勢は必要だと思うんです。

小山 具体的な対策は?

西田 例えば一人一票の証明のために、投票者にSNSのアカウントを明記してもらおうとか、工夫の余地はいろいろありそうです。

小山 なるほど、自分は誰か? せめてそれだけは名乗ってくれよと。トホホなインチキや狂気じみたクレームの多い時代だから、初回からまいったことも多々あったろうと思うけど。

西田 はい。やっぱり最終的には「鈍感力」に尽きますね(笑)

小山 (苦笑) まあ、「つまらん云い掛かりは全部無視しろ」ってあのゲーテも云ってるから。

次回Webフェス、どーする?

小山 さて、業界的にも一定の評価を得ることの出来たこのWebフェスだけど、肝心なのはこれから。この先どう発展させてゆくべきなんだろう?

西田 フラメンコを知らない人たちにフラメンコを知ってもらう。そこは常



「第一回フラメンコWebフェスティバル、最優秀賞の表彰状」

に押さえておきたいですし、次回以降はさらにそこを強化したいですね。

小山 初回フェスでネット配信の長所が明確になったね。

西田 はい。ひとつには広がる余地に限界が無いこと。それと出演する側も、観る側も、設営する側も、皆お金がかからないこと。こういう形態なら、システムやクオリティを少しずつ改善しながら続けていくことが出来ますから。

小山 Webフェスは、管理人がいつか開催したいと願う劇場コンクールの布石でもあったわけだけど、Webフェス自体が独自の価値をもつ発信メディアになれる、そういう可能性を示した第一回だったわけだ。

西田 とにかくフラメンコの人たちが心を折らないうちに何かやろうっていう急場しのぎ的な役割で誕生したWebフェスでしたけど、もしかしたらそれ自体大きなポテンシャルを持つ独自イベントに成長するかもしれないです。

小山 うん、実際にやってみなくちゃ分からないことばかりだったな。さて、ところで次回Webフェスはどーする?

西田 いろいろ有りすぎて迷いますけど、そろそろ決め打ちして動き出さないといけません。この対談でいくつか原案を出して、8月の国際スタッフ会議で皆して叩き合う必要がありますね。

小山 うん、その段取りで行こう。

西田 僕の具体案としては、例えばフラメンコ 歴10年以上の審査員を公募して行なう本格派Webフェスとか。

小山 ああ、いわゆる重賞レースだね。

西田 たくさんのアフィショナードと

協業して日本語の歌を創って、その歌で踊るジャパニーズ・フラメンコソング・フェスとかもやってみたいです。それと、これは踊りの永田健さんのアイデアなんですけど、カンテ・ギター・パルマの伴奏音源をあらかじめ作ってそこを固定して、みな共通の演奏で踊るってやり方。曲種はある程度絞る必要があるでしょうけど、観る方からすると比較的わかり易いってメリットがあります。

小山 音源のギャラはどうすべきかな?

西田 演奏も公募制のボランティアがいいと思います。すそ野が広がればみんな助かる、しばらくはそういうことを共通意識として持ちたい時期ですから。録音場所が必要なら、四谷のカサアルティスタを無料で提供できますし。

小山 なるほど、永田案も実際的だね。

西田 webフェス次回案ですが、小山さんはどう構想されてますか?

小山 うん、今回はこれだな! ってのはあるよ。ズバリ「何でもアリ!」のお祭り。つまり「第二回フラメンコwebフェス」ってくりだけを活かして、何をやってもオッケー。編成も編集もね。第一回はコロナ禍を素直に受容するやり方だったけど、今回はコロナシンドロームから脱却して、まったく制約のない自由な世界観でフラメンコ作品を競ってもらおう。本格派から未来派までが一堂に会して、初めて観る人たちにフラメンコの広さと奥行きを知ってもらうお祭り。

西田 それ、大アリですね。不自由に向き合った一回目と自由に羽ばたく二回目のコントラストが面白いし、一般の視聴者の方により楽しんでもらえる企画だと思います。すそ野を広げるってことは、フラメンコを知らない人たちに観てもらってことです。その最大の目的に直結するいい実験になりそうです。

と、残念ながらここまでで本号はスペース切れ。第二回フラメンコWebフェスの時期や内容、2030プロジェクトの具体的な未来戦略……白熱する議論はさらに2時間ほど続くのだが、それは次号11月号のお楽しみ!